

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4570800237		
法人名	医療法人 隆徳会		
事業所名	グループホーム菜花園	ユニット名	フォレスト1F
所在地	宮崎県西都市大字穂北5253-105		
自己評価作成日	平成24年10月10日	評価結果市町村受理日	平成24年12月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/45/index.php?action_kouhou_detail_2010_022_kani=true&JigyosyoCd=4570800237-00&PrefCd=45&VersionCd=022
----------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階
訪問調査日	平成24年11月7日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

田園地域で隣接する家は少ないが、近くに保育園、小学校があり、日々の触れ合いがあり、利用者様の楽しみの一つになっている。また、同一法人の老人保健施設とも隣接しているので、様々な行事の参加が一緒に出来ており、地域の住民との交流の機会が多い。急変時には、母体の病院受診がスムーズにでき、御家族からは安心であるとの声が聞かれている。職員は、本人様の意向を十分に聞き入れ、出来る事、出来ない事をしっかり見極めて対応している。さらに、家庭的な雰囲気を大切にして、利用者本意の介護を実施している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者の楽しみである、外出や食事に対し、職員の手厚い支援が行われている。ホームに近接する住居は少ないが、保育園と小学校が近く、園庭や校庭が解放され、毎日の散歩コースになっている。日常的に園児や学童、教職員とのあいさつや園児のホーム来訪などの交流があり、利用者も笑顔で応じている。食事は、ユニットごとに調理しているが、同じ食材をADL(日常生活動作)に応じて献立を柔軟に変更し、完食できるよう、調理形態や量、盛りつけを工夫している。口腔ケアやリハビリゲーム、BGMによるメンタルケア、毎日の入浴支援など、健康の保持、増進の必要性を全職員で認識を共有し、実践に努めているホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	フォレスト1F	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は5つあり、毎週1回、月曜日に唱和を行って、意識の共有を図っている。実践にあたり、自分に分かり易い言葉に置き換えて考えている。		ホーム開設当初の理念を、地域密着型サービスの意義を踏まえ、実践につなげていくために表現が見直された。全職員は、日々の実践が、理念に基づくことを共有している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近くの保育園には、毎日散歩に出かけ、園児との触れ合いを楽しんでいる。小学校には運動場、校内を散歩の場所にと、許可を頂いている。		住居が広く点在している地域の特性であるが、近くには保育園や小学校があり、園庭や校庭は利用者の散歩に開放されている。運動会や園児のホーム来訪およびホームの夏祭りなど、相互の交流も活発に行われ、利用者も楽しみにしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	利用者家族やその他見学者、実習生を通して、認知症の理解や支援の方法を伝えている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	市役所からは、制度的な事、消防からは防災対策、社協からは地域状況、家族代表からは経験や要望について、意見、アドバイスを頂いている。		運営病院の会議室にて、同法人内の3つのグループホームが、同日に時間をずらしながら開催している。委員は行政、家族代表であり、協議内容が災害訓練等の時は、消防署職員の出席を依頼している。	地域密着型サービスの意義を踏まえ、地域の代表者（自治会、民生委員等）や利用者が推進会議に参加できるよう検討し、出された意見が運営に生かされるよう期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	疑問点は、直ぐに担当者に連絡をして、協力をもらっている。		担当課職員との連携、協力は行われている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	現時点では拘束はしていない。言葉かけも拘束にならないように、配慮している。老健との合同の委員会に、月1回は出席して、意識付けを行っている。		職員は、法人の身体拘束委員会や研修などで、拘束について理解している。また、拘束を行わないためにはどうすればいいかを考え、実践している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ざされることがないように注意を払い、防止に努めている	様々な情報から、虐待に対する意識は高くなっている。常に虐待を見逃さないように、注意している。			

自己	外部	項目	自己評価	フォレスト1F	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	各1名ずつ制度を活用しているので、制度について認識できている。提出書類の準備もやっている。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前に面接し、料金や日ごろの取り組み等を具体的に説明して、不安や疑問点を聞いている。また、本人様の状態変化等で、必要な福祉機器があったら、その都度検討している。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会、面会時に意見、要望を聞き入れ、運営に反映している。苦情箱も設置している。		職員は、利用者の表情や動作、言葉から把握するよう努めている。家族には、家族会や来訪時に、要望や意見が出しやすいよう声掛けをしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回は話し合いの場を設けており、意見交換を行っている。		定例的には、毎月1回の検討会や年1回の運営者との面接の場があり、職員の意見が運営に反映されている。勤務体制に早出、遅出が創設され、また、利用者の状態による柔軟な勤務時間も検討されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各自、業務の自己評価をして、自分の強み、弱みを確認している。また、上司と年1回面接をして、日頃の処遇や勤務状況を伝えている。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は、勤務年数や資格に応じた研修会の参加を紹介している。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	児湯地区のグループホーム連絡協議会に入り、そこでの研修会や討議に参加をしている。			

自己	外部	項目	自己評価	フォレスト1F	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面接時、入居時などに、要望や生活習慣などを聞き、家庭に近い環境をつくれるように努めている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	御家族からの要望を可能な限り受け入れ、安心して利用者様を入居させられるように努めている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	職員間で話し合い、利用者様がより良い生活が送れるように、サービス内容を常に検討できるように努めている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様が、家庭で過ごされているような状況が作れるよう努めている。時には、利用者様を頼り、得意なことは進んでやって頂いている。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	定期的に家族会や花見等を開催し、利用者様が御家族と共に過ごせる時間を作っている。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	年賀状や月1回の絵葉書等で、近況を報告している。利用者様の希望で、御家族以外の方へ出す時もある。	利用者が、毎月、家族や知人に、職員がハガキに下絵を描き、ぬり絵した絵葉書を出している。受診で外出する際には、西都原公園やなじみの場所をまわるなど、関係継続の支援をしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーション、食事等を全てホールで行い、利用者様同士がいつでもコミュニケーションが取れる状況を作っている。			

自己	外部	項目	自己評価	フォレスト1F	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	その方の情報、個別記録等を保存し、相談などに対応できるようにしている。それらを収集し、サービス終了後も、その後の経過を追えるようにしている。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	居室内のレイアウト、アレンジ等は、ご自宅での生活や一人ひとりに即したものにしている。過ごし方や入浴の希望など、なるべくご本人の意思を反映させている。	本人や家族との面接によるアセスメントに重点を置き、昔の好みや生活習慣を把握するよう努めている。特に、利用開始2週間は、「生活変化ノート」を記録して、情報を共有し、本人の気持ちを理解し、希望に応えられるよう努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	サマリー・アセスメントを活用し、個々の情報の共有などに努める。各利用者の担当者を決め、家族との連絡に責任を持ってもらい、密にしている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その方の出来る部分を重視した対応を心がけている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のモニタリング時は、職員全員から意見をもらい、ケアプランに反映して。利用者の変化があったら、その度に話し合いの場を設けている。	来訪時に家族の意向を聞き、職員の意見や介護記録などを介護計画の作成に反映させている。計画を家族に説明し、目標達成に向けて、毎月のモニタリングと6か月ごとの評価を行っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	実施記録を記入して、サービス内容を毎日振り返り、気づきを同時にして、計画の見直しに活用している。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれ出るニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	希望があれば、それに即した事前の準備や必要物品を確認している。短期入居希望があれば、受け入れている。			

自己	外部	項目	自己評価	フォレスト1F	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	行きつけの美容院、隣接する小学校、保育園、歌や踊りを披露してくれるボランティア、近くの美味しいおにぎり屋、ウナギ屋などをそれぞれに利用して楽しんでいる。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	各利用者の状況を細かくDr.に上申して、併せて御家族の希望も伝えている。御家族の不安が強ければ、他の病院受診も勧めている。	毎月職員が同伴して、運営病院の受診支援を行っている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師へは、事前に状態を再度確認して、それを記載して、アドバイスをもらっている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	毎月の退院調整会議へ出席をして、病院の相談員と常に連絡を取り合い、利用者の状態を把握している。状態が改善したら、早期の退院をし、再入居を促している。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現時点では、医療行為の必要でない方の入居となっている。終末期についての希望は聞いているが、実際の取り組みはしていない。	延命を希望せず、ホームで終末期をすごしたい家族の希望があることやグループホームの終末期支援の傾向について理解しているが、職員だけでは重度化や終末期の対応が困難な状態のため、具体的な検討が行われていない。	看取りについて、家族への説明と意向を把握するとともに、「今、できること、できないこと」を明確にする。実施しているホームの情報や運営病院、訪問看護ステーションとの話し合いを踏まえ、重度化と看取りに関する指針を作成し、課題を解決しながら先に進むことを期待したい。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	月の勉強会で、資料、ビデオで対応の知識を得ている。マニュアルは、常に目の付く所に置き、活用できるようにしている。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回の火災を想定した避難訓練を実施している。利用者役、職員役になり、より実践に近い形で実施している。	介護老人保健施設と合同およびホーム単独で、昼間や夜間を想定した火災時の避難訓練を行い、2階の避難場所やホーム外の避難先での利用者の見守り、職員の到着の所要時間など、消防署の指導で課題解決を図っている。地域を巻き込んだ訓練には至っていない。	火災防止対策のほか、避難訓練では、立地上、地域の協力が必要であり、消防団や地域自治会との日常的な交流の下、昼間と夜間別に利用者の誘導や避難先での見守りなど、内容を明確に依頼する。また、隣接施設間の協力体制を職員が共有することも必要である。	

自己	外部	項目	自己評価	フォレスト1F	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	年長者としての尊敬の念を持って対応している。「ちゃんづけ」では呼ばない。個人情報の取り扱いには注意している。		家族的で親しい仲にも、丁寧で誇りを傷つけない言動で接している。食事や口腔ケア、排せつ確認や誘導には、プライドを損なわない言葉かけや移動が、さりげなく行われていた。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の理解力に合わせた声かけ、説明を行う。自己決定ができるように分かりやすい言葉に置き換えて、注意深く反応を見ている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人へは無理強いを決してせず、動きや状態を見ながら、意向を充分に考えている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	選ぶ事が出来る方は、季節に応じた衣服を一緒に選び、困難な方は、意向を聞きながらこちらで選んでいる。2ヶ月に1回、馴染みの理容院の方に来てもらい、好みのスタイルに髪を切ってもらっている。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	できる範囲で、野菜の皮剥きや切り込み、又はテーブル拭き、箸配りなどを行ってもらっている。		献立は、利用者の好みや施設の管理栄養士からも栄養上の指導を受けている。同じ食材をADL(日常生活動作)に応じて、ユニットごとに調理し、個々のペースで食事を楽しみ、完食するよう配慮している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	脱水、栄養の偏りについての知識、意識は持っている。各自の好みを把握して、食形態、量、時間の配慮をする。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後実施している。洗面所まで歩ける人は、なるべくそこで行ってもらう。決して無理強いはいはしない。			

自己	外部	項目	自己評価	フォレスト1F	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	全員の方が、日中は布パンツを使用している。失禁したら、その都度、速やかに交換をしている		日中は全員、布パンツを使用し、トイレでの排せつを支援している。失禁時は洗浄し、清潔保持に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分、牛乳、バナナ、芋類などを毎日欠かさず摂ってもらい、毎日の体操、散歩を行っている。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	本人の意向を確認して、入浴を実施している。皮膚疾患、失禁のある方は、毎日の入浴を勧めている。		介護用の浴槽を設置しており、利用者は個々の洗身介護（自立、一部介助、全介助）を受けながら、毎日入浴している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人が休息したい時は、いつでも横になれる場所（畳、ソファー）がある。昼食後は、仮眠をとってもらっている。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋を各自確認して、変更、中止があったら確実に申し送り、状態の変化は記録に残している。各利用者の服薬内容をいつでも見れる場所に置いて、その方がどのような薬を飲んでいるか理解している。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人のできる事を見極め、生活歴と照らし合わせて、役割、楽しみごとを行っている。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日の日課として、散歩を取り入れている。年に1回ではあるが、バスでレストランでの食事とドライブを実施している。		毎日の散歩コースに、保育園の園庭があり、園児とのふれあいが行われている。小学校も、休校日には校庭の散歩も許可されているので、散歩コースの変化を楽しんでいる。毎月の病院受診時には、なじみの公園や希望する場所をまわって、外出の機会を増やしている。	

自己	外部	項目	自己評価	フォレスト1F	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人には、お金の所持はさせていない。必要な物は、預かり金より出している事は伝え、いつでも使える事も伝えている。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が希望したら、速やかに電話の取り次ぎを行っている。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じた花や動植物のはり絵などで、季節感を出している。常に音楽を流し、落ち着いた雰囲気も出している。	リビングは、大きなソファを置かず、座り心地の良いソファ張りのいすを食事や団らんに使用するので一層広々とし、採光や風通しが良い。デッキに出て、洗濯物干しや外気浴、プランター花壇を楽しむことができるようになっている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファー、畳、ホールの椅子等に、自分がその時々座りたい場所で過ごしてもらっている。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の写真や簡易な仏壇、使い慣れた椅子等を置き、その人らしく暮らせる部屋になっている。また、畳に布団を敷いて寝る事も出来る。	西欧の洋館風の建築で、天井が高く、居室の多くにベランダがあり、各居室が一層広々としている。ベッドやタンスの配置は、利用者の希望を聞きながら、個々に居心地よく過ごせるよう工夫している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	かがむ事ができない方には、ベッドの高さを調節したり、トイレの場所が分からない方には、大きく表示している。手すりは居室内に無いので、椅子やテーブル、タンス等で代用している。			